

先生・お薦めの本

スポーツを主題とした 爽やかな気分になれる本

保健体育科 田中 良和 先生

私の読んだ本の中から、一押しのスポーツを主題としたものを数冊お薦めします。まずは佐藤多佳子さんの『一瞬の風になれ 1~3』。中学までサッカーをしていた主人公が高校生になって陸上を始め、部の中にあるいろいろなタイプの選手と部員たちが切磋琢磨しながら問題を乗り越え、100×4リレーでインターハイ優勝を目指すストーリーです。一気に読みたくなり、読み終わった後、爽やかな気分になること間違いなしです。

次に、堂場舜一の『チーム』です。この作品は大学陸上部の花形、箱根駅伝のストーリーです。チームで箱根駅伝に出ることのできなかったチームから選抜され出場する学生選抜。様々な思いを持った選手が目標のため一つになれるのか？チームをまとめることが難しいと考えているキャプテン、必読です。同じ箱根駅伝を題材にした三浦しよんの『風が強く吹いている』は故障で走ることをあきらめかけていた主人公が、問題を起こして走ることをあきらめていた選手と出会ったことで、同じ寮に住んでいた全くの素人を巻き込んで箱根を目指すストーリー。そんな無茶苦茶など思いながらも、主人公の的確な練習メニューと声かけにより成長していく素人軍団。これはもしかしたらと思いついたときにはストーリーに引き込まれています。そして最後には…。



次は剣道です。菅田哲也の『武士道シックスティーン〜武士道ジェネレーション』は乱暴者の天才と、おっとり系の流れるような剣道をする二人の剣道女子のストーリー。剣道の細やかな駆け引きや技術の話に加え、なんととっても声の描写がすばらしく、シリーズ4作品は一冊読み終えるたびに次を手にしたくなる作品です。同じく二人の高校生が互いに刺激し合いながら成長するスポーツ小説といえば、百田尚樹の『ボックス 上・下』もお薦めです。ボクシングというスポーツを通して優等生と天才が出会い、優等生は天才の背中に憧れ続け背中を追いかける。そして、最後にはどちらが勝つのか？努力の大切さを考えさせられる一冊です。

そして最後は自転車競技のロードレースというあまりなじみのないスポーツを取り上げた近藤史恵の『サクリファイ』です。自分が勝つために走るのではない…。興味深いスポーツですね。チームワークの大切さ、協力して勝利を目指すことの意義などを考えさせられます。

スポーツ小説は、読み終わった後に爽やかな気持ちになることが多いですね。ここに紹介した本はすべて図書館にあります。移動時間や待ち時間を利用して、携帯ではなく本を手にとって読んでみてください。面白くて次も読みたいと思う本に出会えるはずですよ。このほかにも、お薦めの本はいっぱいあります。いつでも相談に乗りますので、私と本の話をしてみましょう！

読書週間

10月27日(金)～11月9日(木)

標語：本に恋する季節です！



秋の夜長、読書を楽しんでいますか。部活動や、模試、日々の学習……。なかなか読書する時間が見つからないようです。それでも読んで欲しい！なぜなら、読書はとても楽しいからです。田中先生のお薦めの本、おもしろいですよ！



9月の貸出統計

1年333冊 2年39冊 3年128冊 合計500冊

学年組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	21	51	18	99	26	56	32	30	3	0	0	6	0	2	11	17	12	14	0	0	53	11	37	1
合計	333冊								39冊								128冊							

新着図書

- 『錆びた太陽』 恩田 陸 著 (朝日新聞出版) *原発事故で汚染された地域を巡回するロボットたち。そこに現れた謎の女……。
- 『ヒストリア』 池上 永一 著 (角川書店) *第二次世界大戦後、沖縄からボリビアに逃走した千花煉。彼女の運命は……。
- 『危機の現場に立つ』 中満 泉 著 (講談社) *国連軍縮担当次長・中満さんの毎日は多忙を極めています。
- 『12歳の少年が書いた量子力学の教科書』 近藤 龍一 著 (ベレ出版) *12歳……脱帽です。
- 『せつない動物図鑑』 ブロック・パーカー 著 (ダイヤモンド社) *キツネは一生ひとりぼっちで過ごす……せつないですね。
- 『捕まえて、食べる』 玉置 標本 著 (新潮社) *自分で捕って、すぐ食べる。本当に大丈夫なのだろうか……。

もうすぐ入本

『身近にあふれる「科学」が3時間でわかる本』 左巻 健男 編 (朝日新聞社)

ヒートテックは薄いのになぜ温かいのか？冬の必需品・ヒートテックは「吸湿発熱繊維」という汗などの水分を吸収して発熱する繊維を用いた製品です。ヒートテックが温かいのは、私たちの汗の力なのだ！賢くなったような気がする一冊です。



2年生図書委員のお薦めの本

『空飛ぶ広報室』 有川 浩 著 (幻冬舎)

元戦闘機パイロットの主人公と、美人だけど頭が固いテレビディレクターがお互い刺激を受けながら成長していく話です。航空幕僚監部広報室のメンバーが、自衛隊のことを世間の人に知ってもらおうと一生懸命頑張る姿に、心を動かされます。また、東日本大震災のとき、自衛隊がどのような活動をしていたのかも、知ることができます。(M)

『チア男子!!』 朝井 リョウ 著 (集英社)

この本は、男子大学生が男子チアチームを作って全国大会を目指す物語で、様々な葛藤や悩みと闘いながら目標に進んでいく主人公の姿に元気がもらえる作品です。今の自分と年齢の近い登場人物が活躍する内容であることがこの本の良さです。ひとりでも多くの高校生に読んでほしいと思います。(H)

3年生に薦めてもらった本



3年生のSさんが「温かな気持ちになって、思わず涙がでた。読んでみて！」と言って返却した本。森沢明夫の『エミリの小さな包丁』(角川書店)という小説です。そんなに面白いのかな？と半信半疑で読んでみました。大きな山場もない小説でしたが、あっという間に読み終え、本当に温かな気持ちになりました。毎日をきちんと生きることの大切さ、日常を豊かに生きることの楽しさを教えてくれる小説でした。私たちは、毎日を丁寧にきちんと生きているだろうかと考えさせられました。忙しい時や落ち込んでいる時にこそ、平常心で日々を過ごす。本当に心が温かくなる本でした。(M)

編集後記 読書週間が始まりました。忙しい時期ではありますが、ぜひ、時間を見つけて本を読んでください！新しい発見があるかもしれません。本に恋する……までいなくても、本を好きになってください！

